日本都市計画学会関西支部
研究支援 都市計画研究会

「簡易宿所型ジェントリフィケーション研究会」最終報告書

研究代表者：加登遼
Haruka KATO
https://researchmap.jp/_haruka-kato
https://orcid.org/0000-0003-0831-1543

【本研究会が取り組む都市問題】

本研究が取り組む都市問題は、急増する簡易宿所が引き起こすジェントリフィケーションである。具体的には、簡易宿所の急増により、地域住民が減少してしまい、伝統的なコミュニティが衰退しているのである。特に、その課題が深刻なのは、京都である。現在、京都で発現しているジェントリフィケーションは、既存理論と異なり、マージナル・ジェントリファイヤーが、住民ではなく、簡易宿所である点に特徴がある。さらに、そのジェントリファイヤーは、国内外の投資家である事例も報告されている。このように、従来とは異なって京都で発現しているジェントリフィケーションを、本研究会は「簡易宿所型ジェントリフィケーション」と定義する。この簡易宿所型ジェントリフィケーションに対して、地域住民と簡易宿所の共存に向けて、都市計画により解決する方策はないのだろうか。

【本研究会の目的と研究内容】

本研究会の目的は、簡易宿所と地域住民が共存できる方策を、実践的に解明することである。具体的には、

1. 簡易宿所型ジェントリフィケーションに対する居住者評価に関する研究
2. 簡易宿所型ジェントリフィケーションのジェントリファイヤーに関する研究

これら 2 点を解明することにより、

3. 宿泊客と地域住民の共存を目指したプロジェクトの検証

をすることが、本研究会の長期的なビジョンである。

【本研究会の成果】

本研究会の成果は、以下の 8 点である。具体的な成果は、リンク先 / DOI を参照のこと。

1. 都市プロジェクトへの協力

[1] 2019-2020 年度：「修徳まちづくりガイドライン」策定への協力, https://kyotokeikan.org/syutoku_HP/syutoku_image/keikan/guideline-2021.pdf
[2] 2020 年度：修徳まちづくりガイドライン策定に向けたアンケート調査の実施（調査報告書の閲覧を希望する者は、報告書の利用目的を明記の上、研究代表者まで連絡下さい。研究代表者が審査した上で、ご返信致します。）

2. 学術論文（査読有）

[3] 加登遼（2020）「京都市中心部の簡易宿所型ジェントリフィケーションに対する居住者評価 -京都市下京区修徳学区を事例として-」, 日本建築学会計画系論文集（カテゴリーⅡ）, Vol.85, No.772, pp.1195-1205, https://doi.org/10.3130/aija.85.1195
[4] 加登遼（2021）「京都市中心部における簡易宿所型ジェントリフィケーションが都市組織に与えた影響 -2015 年から 2019 年までの京都市下京区修徳学区を事例として」, 日本建築学会計画系論文集（カテゴリーⅢ）, Vol.86, No.783, pp.1143-1453, https://doi.org/10.3130/aija.86.1443

3. 国際会議論文（査読有）

[5] Haruka KATO（2020）"Residents' Evaluations of the Tourism Gentrification Caused by Guesthouses in the Central Area of Kyoto City: A Case Study of Shutoku District in Kyoto City," IOP Conference Series: Materials Science and Engineering (World Multidisciplinary Civil Engineering-ArchitectureUrban Planning Symposium - WMCAUS 2020), Vol. 960, No.032063, https://doi.org/10.1088/1757-899X/960/3/032063
[6] Haruka KATO（2021） "Process of Developing Community-based Guideline against Tourism Gentrification Caused by Simple Accommodation: A Case Study of Shutoku District in Kyoto City" IOP Conference Series: Materials Science and Engineering (World Multidisciplinary Civil Engineering-Architecture Urban Planning Symposium - WMCAUS 2021), 掲載決定済・掲載頁未定

4. 国内での発表論文（査読有）

[7] 加登遼（2020）「京都市中心部の簡易宿所型ジェントリフィケーションに対する居住者評価-京都市下京区修徳学区を事例として-」, 日本建築学会大会学術講演梗概集（オーガナイズドセッション）、No.7352、千葉大学（オンラインでの発表に変更）

5. 招待講演

[8] 加登遼（2021）「京都市中心部の観光ジェントリフィケーションに対するまちづくり：修徳まちづくりガイドライン策定までのプロセスを事例として」, 公開研究会 インクルーシブツーリズム研究会シリーズ, 龍谷大学, 2021.3.11